

補助事業番号 2020P-223

補助事業名 2020年度 地域社会の共生に資する研究事業補助事業

補助事業者名 東海大学健康学部 市川享子

1 研究の概要

これまでの復興支援ボランティア論は「ボランティアの力をどのように引き出すか」等、支援側を焦点にした研究に集中していたという課題があった。一方被災した地域や当事者にとって、ボランティアとつながったことはどのように意味があったのか、実際に復興に影響があったに関して実証的な解明が必要となる。本研究では自然災害後の地域復興(コミュニティレジリエンス)における、ボランティア関与とその影響について、ボランティア受け入れの中心的役割を担った中間支援機関や住民等へのインタビューと分析をおこなうことにより、当事者視点にたった災害ボランティア論の理論化を進め、それに基づいた教材を開発した。

2 研究の目的と背景

甚大な被害をもたらした自然災害後に、ボランティアがかけつける状況は一般的になっている。特に1995年阪神淡路大震災時は「ボランティア元年」と言われ、自助・共助・公助に加えて、市民がボランティアとして復興に関わる枠組みは日本社会に定着していると言える。しかし、これまでの研究では「ボランティアの力をどのように引き出すか」、「ボランティアと被災した地域や人々と、ボランティアのマッチングのあり方」など、ボランティアをする側を焦点にした研究に集中していたという課題があった。一方、被災した地域や当事者にとって、被災後にボランティアとつながったことはどのように意味があったのか、復興への影響については解明が求められている。

本研究では以下の2つのレベルで研究を進めた。第1に東日本大震災で甚大な被害を受けた地域のリーダー(自治体や避難所や復興協議会の幹部等)はどのような判断やプロセスでボランティアを受け入れ、その後どのようにボランティアとの協働を展開させていったのか、そしてボランティアとつながったことは地域の復興という意味でどのような影響があったか、その評価について、聞き取り・分析することで、被災した当事者の視点にたった災害後のボランティアの関与のあり方について、知見を導く。

第2に、地域リーダーの判断やコーディネートにより被災地域にボランティアが関わったことは、被災者人々にとって実際にどのような影響があったのか、ボランティアを受け手となった当事者からの聞き取りをもとに分析・考察していく。ここではボランティアの受け入れに対応した住民一般と災害時の小中学生等(現在は成人)への調査を実施する。特に災害後の遊び場づくりや学習支援は災害支援の中心的活動のひとつであり、その影響についての追跡調査的な研究となる。

こうした2点の視点で調査を進めることで、これまでの研究で明らかにされてきた、支援者目線に立ったボランティア研究について検証し当事者視点に立った新たな理論構築ができるとともに、災害復興において全国的に先導的機関に所属する専門家と研究会・研修会を開催することにより、日本や海外への波及効果を高める。

3 研究内容

(1)東日本大震災による被災3県への機関、住民等にインタビュー調査

東日本大震災で被災した岩手県、宮城県、福島県の3県において、ボランティアと協働した経験を有する機関や学校、中間支援機関、住民等に対してインタビュー調査を実施。助成期間中に実施した調査として社会福祉協議会、災害ボランティアセンター立ち上げに従事したスタッフ、冒険遊び場(子どもの遊び場)、障がい者雇用のNPO等の機関のほか、漁業に従事する住民や遊び場や学習支援に参加経験のある災害当時の小中学生等にインタビュー調査を実施した。

(2)教材開発「災害支援への関わりの対話とリフレクションのための24の問い」

災害支援への対話とリフレクションのためのガイディングクエスチョンの考案とリフレクションのための教材としてワークショップ用のカードとワークシートを開発
※ガイディングクエスチョンについては英語版も策定し、海外においても普及・活用できるようにした。

4 予想される事業実施効果

・リフレクションカード「地域への関わりを考える24の問い」カードを用いたワークショップの開催
※研究代表の市川享子のほか、リフレクションカードの共同制作者や全国災害ボランティア支援団体ネットワークのメンバーにより、リフレクションカードを用いたワークショップの開催

・ボランティアと市民社会に関する世界最大の国際学会であるInternational Society for Third Sector Research (ISTR)での発表。

発表タイトル:Community Resilience Collaborating with Volunteers After the Great East Japan Earthquake.

・被災地域におけるボランティアの関与とレジリエンスに関する研究の継続的实施

5 補助事業に係る成果物

(1)補助事業により作成したもの

教材開発「災害支援への関わりの対話とリフレクションのための24の問い」

(2)(1)以外で当事業において作成したもの

特になし

6 事業内容についての問い合わせ先

所属機関名: 東海大学健康学部 (トウカイダイガクケンコウガクブ)

住所: 〒259-1292 平塚市北金目4丁目1-1

担当者: 市川享子 (イチカワキョウコ)

担当部署: 東海大学健康学部 (トウカイダイガクケンコウガクブ)

E-mail: k.Ichikawa@tokai.ac.jp

URL: <https://www.u-tokai.ac.jp/facultyguide/faculty/4196/>